

鹿児島県柔道会だより

■発行人：北 哲郎 ■編集：総務部編集委員会 ■発行：公益財団法人鹿児島県柔道会(099-222-7770)

平成26年度県柔道会基本方針

会長 北 哲郎



1 嘉納師範の理想とする「人間教育としての柔道」の推進

2 「武の国薩摩」復活を目指した競技力向上

本年度も昨年同様「教育柔道」と「競技力向上」を最重点課題として「2020年鹿児島国体」の成功を期すべく、競技力向上はもちろんのこと、青少年の健全育成・指導者の資質向上など、柔道の普及振興を積極的に図り、それにより県民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを目的として諸事業を幅広く展開していく。

「評議員会」報告

平成26年度の公益財団法人鹿児島県柔道会評議員会(昨年までは定期総会)が、4月19日(土)開催されました。北哲郎会長から、本年度県柔道会基本方針を含めた挨拶がありました。その後、平成25年度事業報告・決算報告及び平成26年度事業計画・予算並びに理事1人の変更について協議され、全て承認されました。

評議員会に先立ち各地区事務担当者会があり、登録等について説明がありました。今年も登録を各地区において、早期の確実な実施のお願いやPCを使った登録の仕方についての説明もありました。不明な点は、遠慮無く事務局へお尋ねいただきたいと思います。

☆柔道功労者等表彰

・地域振興指導者 2人

- 西郷 昌隆(曾於地区)
永年に亘り柔心館道場の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。
- 羽生 浩行(鹿児島地区)
永年に亘り正道館柔道場の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。

・平成25年度 六段昇段者

六段昇段者(6人)

- 平嶺 繁(薩川内・さつま地区)
- 八反田 太(鹿児島地区)
- 竹下 伸一(曾於地区)
- 高吉 澄孝(始良・伊佐地区)
- 内村 秀樹(始良・伊佐地区)
- 田原 幸一(鹿児島地区)

・平成26年度強化委員

◇小学生

- 西郷 昌隆(曾於地区)
- 羽生 浩行(鹿児島地区)
- 田邊 侑(始良地区)
- 林 岩宏(鹿児島地区)
- 内村 純博(肝属地区)
- 鮫島 芳美(曾於地区)
- 大久保太智(南薩地区)
- 久保田清正(熊毛地区)
- 高吉 澄孝(始良地区)
- 下野 雅浩(薩摩川内地区)
- 神余 徹(日置地区)
- 阿部 光明(大島地区)
- 鮫島謙一郎(南薩地区)
- 仮屋 廣(南薩地区)
- 天達 恵一(南薩地区)
- 米倉 優一(鹿児島地区)
- 石原 英明(阿久根地区)
- 森 好郎(伊佐地区)
- 瀧川 清士(鹿児島地区)

◇中学生

古賀 雅弘 (桜山中)
 豎山 浩治 (吉野中)
 山野 修 (伊敷中)
 児玉 拓也 (帖佐中)
 寺口純一郎 (鹿屋東中)
 弥栄 敏郎 (出水中)
 染谷亮太郎 (吉野中)
 櫻井 浩史 (阿久根中)
 西 有生央 (金久中)
 肱岡 博史 (重富中)
 宮久保美鈴 (谷山中)
 眞正 基道 (高山中)
 野村宗一郎 (谷山北中)
 古賀 陽佑 (舞鶴中)
 中尾小都枝 (県柔道会)

◇少年男子

田原 幸一 (明桜館高)
 黒木 徳男 (鹿情報高)
 松野下修司 (明桜館高)
 川野 政弘 (鹿工業高)
 梶原 義彦 (鹿商業高)
 横峯 亨 (鹿実業高)
 豎山 剛 (鹿情報高)

◇少年女子

篠原 貞二 (出水中央高)
 吉村 智之 (国分中央高)
 鮫島将太郎 (鹿児島南高)
 熊井 康浩 (鳳凰高)
 豎山 剛 (鹿情報高)

◇成年男子

田中 総一 (県警察)
 向井 一輝 (県警察)
 中菌 雅博 (県警察)
 小林 義弘 (拘置所)
 福元 雅一 (県警察)
 上村 正 (県警察)
 小山田和行 (鹿屋体育大)

◇成年女子

福元 雅一 (県警察)
 中村 勇 (鹿屋体育大)
 小山田和行 (鹿屋体育大)
 中尾小都枝 (県柔道会)

「柔道指導者講習会」報告

平成26年度の柔道指導者講習会が、5月

15日(木)・16日(金)の2日間、県総合体育センターとの共催で県総合体育センター武道館で開催されました。県下各地からスポーツ少年団指導者をはじめ中学校・高等学校・大学の柔道部顧問や指導者、警察署・刑務所の柔道関係者、一般の柔道愛好家ら約180人の参加がありました。

1日目は、午前中に現在、県柔道会の副会長で、元鹿児島大学の松永郁男教授八段による「道について」という演題で講演がありました。「道」については、一般的な考え方や老子の考え方などの紹介があり、武道という言葉には、技術的なものと理念的なものが含まれている等の話がありました。

特に、嘉納師範は書籍において『明治15年柔術を柔道と改めたのは、種々理由があったが、最も大きな理由は、講道館で教えるのは「道」が本体であって「術」は付随したものであり、かつ、「道」に入る手段であることを明らかにするためであった。』と述べ、「術を手段に道に入る」という「術」と「道」との関係定義している等の話は、指導者として考えさせられるものでありました。

午後からの前半は、参加者全員に対して、実技Ⅰ「投げの形」福元雅一七段(鹿児島県警察学校)、山野修四段(伊敷中学校教諭)の指導が120分あり、後半は2つの班に分かれて実技Ⅱ「固の形」向井一輝六段(鹿児島中央警察署)、中菌雅博六段(鹿児島県警機動隊)と実技Ⅲ「柔の形」田中総一七段(鹿児島県警察本部警務課)、小林義弘六段(鹿児島拘置支所)の指導がありました。

2日目は、午前中と午後の前半に講義Ⅰ・Ⅱとして、本県出身で全日本柔道連盟国際審判員の諏訪剛八段が「審判法」「国際柔道連盟試合審判規定・少年大会申合せ事項」と題して講義をされた。

この国際柔道連盟試合審判規定は、平成26年1月1日からの国際大会で適用され、日本においては4月1日から適用された規定であります。規定での本質的なねらいは、しっかりと組み合せて「一本を取る柔道」を普及推進するものであります。

本県では、今回の柔道指導者講習会の受講を持って、この規定に移行し、今後の全ての大会に適用するものであるため、受講者は終

始熱心に講義を拝聴しておりました。続いて講義Ⅲ「全柔連登録関係・指導者資格について」中村勇六段(鹿屋体育大学講師)の指導があり、最後に実技Ⅳで「審判法」「高段者試合」が、北菌季康七段(鹿児島県警察本部警務課)の指導のもと実施され、講習会の全ての日程を終了しました。



《 郷土選手の活躍 》

☆全国高校選抜大会

3月20日(木)日本武道館

前田 千島(国分中央高校2年生)が
女子52Kg級で見事優勝

(道場めぐり 26)

加世田柔道スポーツ少年団の活動

代表者 仮屋 廣

現在、加世田柔道スポーツ少年団は、小学生15人、中学生6人、幼児1人活動を行っています。練習会場は、加世田中学校武道館を使用させていただき、小学生以下は火曜日、木曜日、土曜日の週3回午後6時から午後9時まで行っております。

これまで加世田では、矢野先生が万世柔道少年団を大楠先生が加世田柔道少年団を長年指導されておられましたが、団員の減少から市全域での指導を先日お亡くなりになられました竹ノ内先生を中心に運営され、平成元年度から現体制で指導し、今日に至っております。現体制での人数の増加はあまりない状況ですが、団員の増加を願い南さつまコミュニティスポーツクラブにも加入し活動や広報などを行っておりますが、なかなか厳しい状況です。

また、通常の練習は、「柔能制剛」「精力

善用」「自他共栄」を基本に、柔道を好きになること、怪我をしないこと、挨拶を行うこと、相手を重んじること、元気を出すことなどを中心に指導しております。体格に恵まれた選手はほとんどなく、粘りと根性、日頃の練習の積み重ね、「柔能制剛」の精神でこれまでの先輩なども試合に臨み全国大会にも出場してきました。さらに、交流を深めることにも重点を置き、相互の交流・親子の交流を目的に焼肉などの懇親会、夏場のカヌー体験、清掃作業など色々な活動にも参加しております。

今後も県柔道会・南薩支部の先生方の御指導の下、個々の能力に応じた指導、「自他共栄」の精神など基本的なことを中心に指導し全国大会に出場するなど少しでも多くの体験ができるよう指導したいと思っております。



(道場めぐり 27)

国分西柔道クラブの活動について

指導者 高吉 澄孝

国分西柔道クラブは、結成されて今年で15年目を迎えました。

部員は、主に国分・隼人の学校区から集まり、現在、幼児2人、小学生15人の17人で週2回、月曜と木曜、18時30分から20時30分までの約2時間活動しています。この週2回の少ない練習を大切にして、集中して練習に取り組み、単に柔道が強くなることだけではなく、「元気な声で挨拶ができること」「みんなが仲よくし、自分より年下の子を可愛がることができること」「どんなに辛いことがあっても、くじけない強い精神力を持つこと」「柔道を通じてすべての人に感謝の気持ちを持つこと」等、何より柔道が好

きになること、心身ともに健全な子どもを育てることを目的としています。

練習は、主将を中心とした高学年の号令で準備運動、受け身等、基礎練習に時間をかけて行い、怪我をしない・させない柔道を目指し、対人練習では相手としっかり組み合せて技を掛けることを国分西柔道クラブのモットーにしています。

年間を通して行われる各種大会・合同練習にもできる限り参加し、実践を通してよかったところ、うまくできなかったところを考え、それに基づいた打ち込み、体の使い方、組手、技を掛けるタイミング等、練習を組み立てて行います。

今年は、低学年・中学年の部員も増え、色々なタイプ・体格の相手と練習することができます。柔道が好きになり、お互いが切磋琢磨して柔道に取り組んでもらえたらというのが願いです。柔道は、精神的にも肉体的にも自分を成長させてくれますし相手がいなければ自分自身も成長できません。柔道は、本当に相手を敬う気持ちを養うことができるものだと思います。

国分西柔道クラブでは、練習・試合以外にも夏休みを利用して、キャンプ等のイベント、クリスマス会・卒団式も計画し活動しています。普段の練習・試合等で見せる子どもたちの真剣で引き締まった表情とは違った笑顔満面の姿を見ると、学校はそれぞれ違っても柔道を通して繋がった連帯感を強く感じます。

最後に、指導の先生方、保護者の方々、鹿児島県柔道会の方々の取り組みに感謝しながら今後も一致団結して、頑張っていきたいと思えます。



各種大会の成績(2月～5月)

- ・第24回鹿児島県柔道選手権大会
- ・第16回鹿児島県女子柔道選手権大会

2月8日(土)鹿児島アリーナ

- ☆男子 内 健治郎(県警機動隊) 二連覇
- ☆女子 牧田 朱加(鹿児島南高校) 初優勝

【男子】

- 1位 内 健治郎(県警機動隊)
- 2位 堂前 賢吾(県警機動隊)
- 3位 阿部 祥央(鹿屋体育大)
- 3位 濱田 恭輔(県警機動隊)
- 5位 田中 成司(県警機動隊)

【女子】

- 1位 牧田 朱加(鹿児島南高校)
- 2位 古賀ちなつ(鹿屋体育大)
- 3位 青柳 麗美(鹿児島情報高校)

3月の九州柔道選手権大会及び九州女子柔道選手権大会には、男子3位、女子2位までが出場しました。

県柔道選手権大会ルネッサンス

鹿屋体育大学大学院 森崎 由理江

私が柔道を始めたのは8歳の頃でした。兄弟がやっていたのがきっかけで、初めて柔道という競技を見たときの小さい選手が大きい選手を投げている光景は、私にとって目を輝かせるものであり、とても感動したのを今でも覚えています。

柔道をやり始めて、小学生ながら自分がどんどん強くなっていくのがわかり、もっと強くなりたいという気持ちが出てきました。そんな時、4年に1度のオリンピックが行われ、日本代表の柔道選手たちが次々と金メダルを取る姿を見て、私はオリンピックに出ることを決意し、「オリンピックに出て必ず金メダルを取る」これを自分の夢にしました。

それから日本一になることを目標に、毎日厳しい稽古やきついトレーニングにも耐えてきましたが、中学生になっても、高校生になっても、大学生になっても、日本一になることがなかなかできませんでした。それでも、私は勝つことを諦めず、信頼する指導者の教えを守り、今までやってきたことは必ず報われると信じてやってきました。そして、私をここまで強くしてくれた恩師、陰で支えてくれる家族、応援してくれている仲間たち

には、必ず恩返しをしたいという気持ちがありました。

そのために、どんな辛いことも苦しいことにも負けず、大きな壁もたくさん乗り越えてきました。新たに大学院生となって、柔道だけでなく勉強との両立がとても厳しい毎日になり、正直、今年も勝てないかもしれないという不安がありました。しかし、必ず勝って日本一になりたいという強い思いから、大会当日は、絶対に勝てるという自信が不思議と出ていました。

日本一になれたことは、日々の稽古やトレーニング、家族の支え、仲間やたくさんの方々の応援、そして監督の熱心な指導がそのまま結果として実ったものであり、それら全ての努力が本当に報われた瞬間でした。

私は、柔道という競技だけでなく、夢や目標を持つたくさんの人々に諦めないことの大切さを伝えたいです。また、自分に負けない強い心・信念を持つことで夢や目標は実現するのだと思っています。そして、私が柔道を通して、これまでたくさんの方々のことを学んできた

礼儀作法や挨拶、目上の人に対する言葉遣いや振る舞い、相手を敬う気持ちや感謝の気持ちを持つ大切さを、柔道をやっている皆さんにも学んでほしいと願っています。

「地方から日本一」という目標を実現させた今、また、新たに「地方から世界一」になることを目標に掲げ、地方でもやれることを証明できるようこれからも頑張っていきたいと思えます。

最後に、本日はこのような場を設けていただき、本当にありがとうございました。

平成25年全日本体重別選手権48Kg級優勝者

・県下中学校新人柔道大会

2月9日(日) 鹿児島アリーナ

◇団体戦(男子)

- 1位 鹿屋東中学校
- 2位 金久中学校
- 3位 山川中学校
- 3位 帖佐中学校

◇個人戦(男子)

- 1位 吉野 弘人(野田中学校)
- 2位 吉村 太一(鹿屋東中学校)
- 3位 青柳 大虎(舞鶴中学校)
- 3位 小島 孝太(川床中学校)

◇個人戦(女子)

◇40Kg級

- 1位 小川 真美(田代中学校)
- 2位 岩元 愛優(志布志中学校)

◇44Kg級

- 1位 有野 美優(帖佐中学校)
- 2位 阿野 美明(東谷山中学校)

◇48Kg級

- 1位 藤田 真由(鹿屋東学校)
- 2位 西 季香(吉野中学校)

◇52Kg級

- 1位 小原 理生(舞鶴中学校)
- 2位 有馬さくら(金峰中学校)

◇57Kg級

- 1位 藪田しお奈(吉野中学校)
- 2位 清水 美穂(坊津学園中学校)

◇63Kg級

- 1位 上釜 さくら(枕崎中学校)
- 2位 瀬戸口ひかり(田代中学校)

◇70Kg級

- 1位 野間 陽(舞鶴中学校)
- 2位 富永奈々美(末吉中学校)

◇70Kg級 超級

- 1位 上林山未来(鹿屋東中校)
- 2位 宮原 優菜(重富中学校)

・県下少年新人柔道大会

2月15日(日) 鹿児島アリーナ

◇団体戦

- 1位 柔心館道場(曾 於)
- 2位 末吉(曾 於)
- 3位 修道館(鹿児島)
- 3位 三 笠(出水)

・県高等学校柔道競技大会

5月28日(水)・29日(木)

鹿児島アリーナ・メインアリーナ

【男子団体戦】

- 1位 明桜館高等学校(3連覇)
- 2位 鹿児島情報高等学校
- 3位 鹿児島実業高等学校
- 4位 鹿児島商業高等学校

【男子個人戦】

男子(60Kg級)

- 1位 芝元 大輝(鹿児島実業高校)
- 2位 會所 佳高(鹿児島情報高校)

男子(66Kg級)

- 1位 中村 啓佑 (鹿児島情報高校)
- 2位 田中 純也 (鹿児島情報高校)

男子(73Kg級)

- 1位 上迫 治希 (鹿児島情報高校)
- 2位 東中川 亮 (鹿児島水産高校)

男子(81Kg級)

- 1位 冨森斗樹也 (鹿児島情報高校)
- 2位 塩田 悠乃 (鹿児島商業高校)

男子(90Kg級)

- 1位 半渡 賢太 (鹿児島商業高校)
- 2位 川村 翔真 (鹿児島情報高校)

男子(100Kg級)

- 1位 大脇 充倫 (鹿児島実業高校)
- 2位 徳田 大地 (明桜館高校)

男子(100Kg超級)

- 1位 中村 元輝 (鹿児島情報高校)
- 2位 原田 拓也 (鹿児島実業高校)

【女子団体戦】

- 1位 鹿児島情報高等学校 (2連覇)
- 2位 鹿児島南高等学校
- 3位 国分中央高等学校
- 4位 出水中央高等学校

【女子個人戦】

女子(48Kg級)

- 1位 奥菌 聖奈 (明桜館高校)
- 2位 谷村 有未 (鹿児島南高校)

女子(52Kg級)

- 1位 前田 千島 (国分中央高校)
- 2位 稲泉 愛瑠 (出水中央高校)

女子(57Kg級)

- 1位 前野 彩 (国分中央高校)
- 2位 大久保來來 (鹿児島南高校)

女子(63Kg級)

- 1位 幸田 奈々 (鹿児島南高校)
- 2位 山下 優光 (鹿児島情報高校)

女子(70Kg級)

- 1位 牧田 朱加 (鹿児島南高校)
- 2位 青柳 麗美 (鹿児島情報高校)

女子(78Kg級)

- 1位 宮崎 繭 (鹿児島南高校)
- 2位 西山 美依 (国分中央高校)

女子(78Kg超級)

- 1位 鬼塚葉瑠奈 (鹿児島情報高校)
- 2位 古市 眞愛 (鹿児島情報高校)

・県下中学校柔道大会

5月31日(土) 鹿児島アリーナ

◇団体戦(男子)

- 1位 鹿屋東中学校
- 2位 金久中学校
- 3位 帖佐中学校
- 3位 吉野中学校

◇団体戦(女子)

- 1位 吉野中学校
- 2位 末吉中学校
- 3位 中種子中学校
- 3位 枕崎中学校

◇個人戦(男子)

- 1位 吉野 弘人 (野田中学校)
- 2位 小島 孝太 (川床中学校)

◇個人戦(女子)

- 1位 上林山未来 (鹿屋東中学校)
- 2位 野間 陽 (吉野中学校)

主な行事予定(6月~9月)

6月 7日(土) 県ジュニア体重別選手権大会

6月14日(土) 国体選手選考会(成年・少年)

6月21日(土) 県下小学生学年別大会

6月21日(土) 九州Bライセンス試験(県柔道会館)

6月29日(日) 第29回マルちゃん杯九州少年柔道大会(鹿児島アリーナ)

7月23日(水) 県中学校総体柔道競技~24日(木)

7月28日(月) 本部夏期講習会~8月2日(土)

9月21日(日) 第68回県民体育大会柔道競技(知覧武道館)

【編集後記】平成26年度もあっというまに2か月が過ぎた。この時期は、各種大会が目白押しだ。選手、保護者、大会関係者も一番緊張・興奮する時期であろう。県柔道会の基本方針は、本年度も「教育柔道」と「競技力向上」を掲げた。講道館柔道6月号の後記に少年柔道の活動が述べられている。週5回以上活動する子供たちが11%いる。これは、家庭学習の時間が期待できないと述べている。指導者・保護者とも勉学に対する姿勢を確立させてほしいと述べている。(西川)